



世界で活躍 できる研究者 育成プログラム 総合支援事業

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

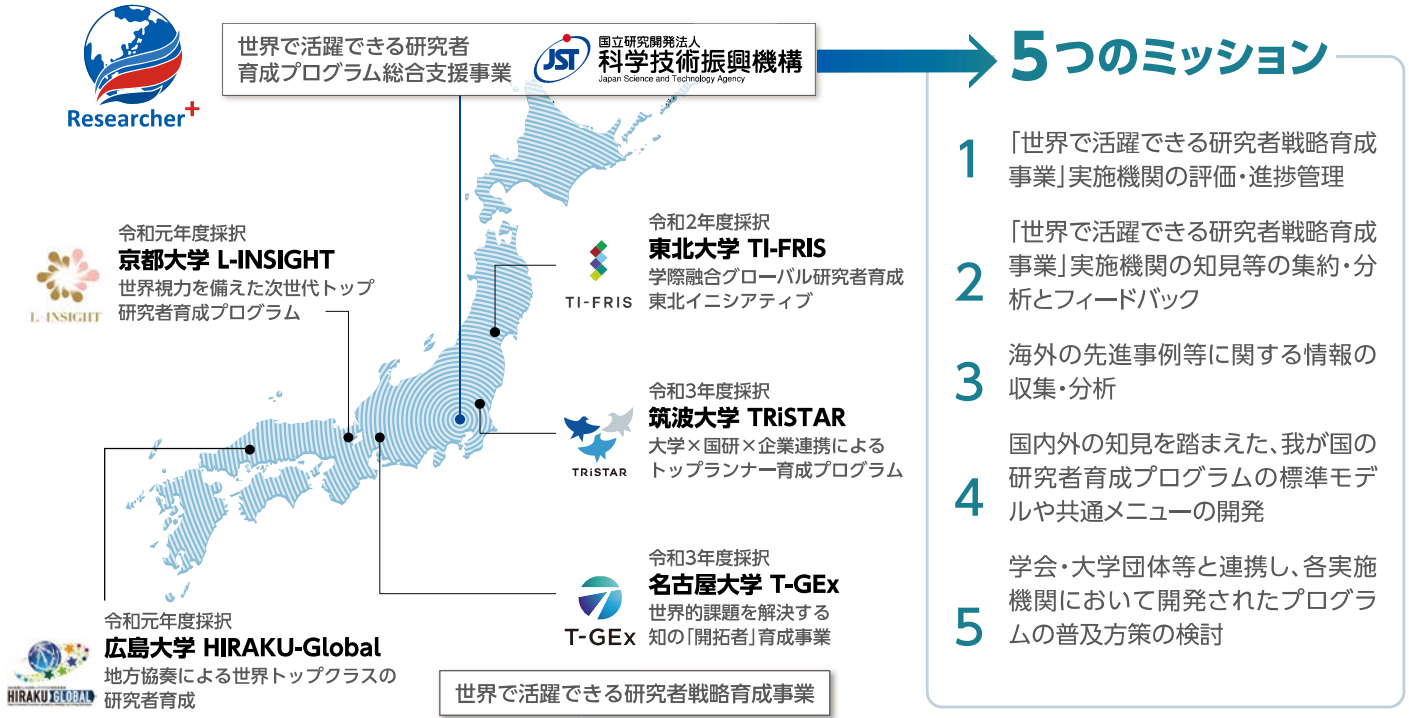


世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業

事業概要

JSTは令和元年度に「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」の採択を受け、「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」の採択5機関とともに、産学を問わず世界でトップクラスの研究者として活躍できる人材を戦略的に育成するプログラムの開発に取り組んでいます。これらの取り組みを総称して「**Researcher+ (リサーチャープラス)**」と名づけ、JSTは以下に掲げた5つのミッションを遂行することにより、Researcher+の取り組みを一体的に推進しています。

本事業は文部科学省科学技術人材育成費補助事業として実施されています。



*各実施機関の取組の概要については、折り込みのリーフレットをご覧ください。

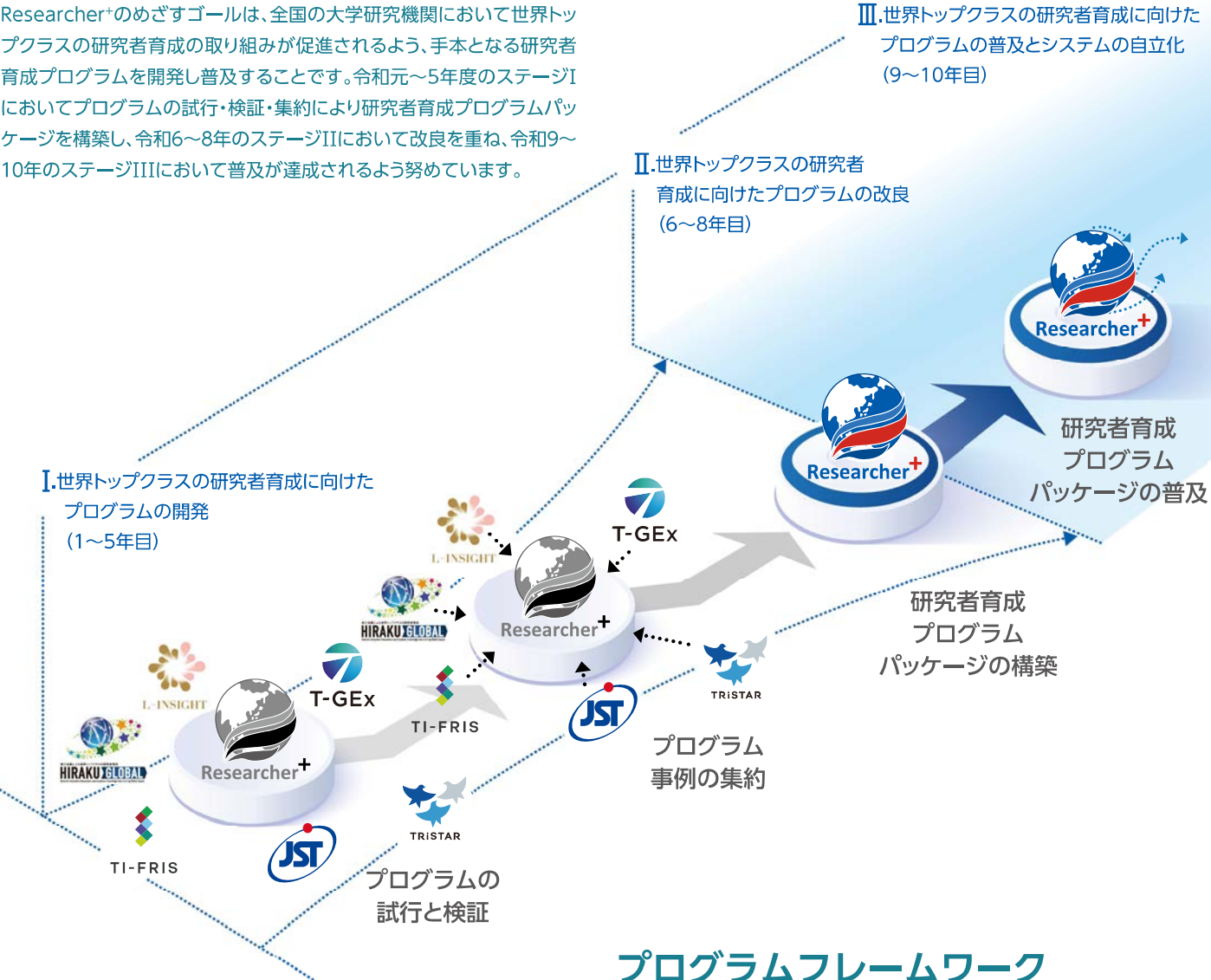
事業運営体制

本事業は、JST科学技術イノベーション人材育成部に事務局を設置し、「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」の実施機関の進捗管理・評価を行う開発普及委員会、研究者育成プログラムの開発に向けた連携協力を行うプログラム検討WGを運営しています。



研究者育成プログラムの開発と普及

Researcher+のめざすゴールは、全国の大学研究機関において世界トップクラスの研究者育成の取り組みが促進されるよう、手本となる研究者育成プログラムを開発し普及することです。令和元～5年度のステージIにおいてプログラムの試行・検証・集約により研究者育成プログラムパッケージを構築し、令和6～8年のステージIIにおいて改良を重ね、令和9～10年のステージIIIにおいて普及が達成されるよう努めています。



プログラムフレームワーク

Researcher+は、各実施機関が取り組む多種多様なプログラムを一元的に集約することにより、研究者育成プログラムパッケージの構築をすすめています。パッケージに集約される各種プログラムの用途や特徴を整理するために、Researcher+は独自のプログラムフレームワークを設定しています。本フレームワークは、文部科学省「海外の研究者育成における研究者としての職能開発に関する調査研究」に基づき、世界で活躍できる研究者に求められる能力指標により構成されています。

人間関係スキル ▼		マネジメントスキル ▼		技術・知識 ▼
01 ネットワーキング 	02 表現力 	03 コミュニケーション 	04 チームワーク 	
05 リーダーシップ 	06 ティーチング 	07 チームマネジメント 	08 プロジェクトマネジメント 	
09 セルフマネジメント 	10 問題解決力 	11 創造力 	12 研究技術・専門知識 	
13 汎用技術・知識 	14 グローバル能力 	15 倫理 	16 キャリア開発 	



世界視力を備えた 次世代トップ研究者育成プログラム L-INSIGHT

L-INSIGHT は、「世界視力」を時間、地理、学問分野、セクター等の境域を超えて見渡し、見抜き、見通す力と定義し、マインドセットとスキルセットの醸成・強化に取り組めます。若手研究者や有識者等との対話を通じた事業構築と体系化に努め、次世代トップ研究者を育成するプログラムの開発と普及を目指します。

総括
責任者

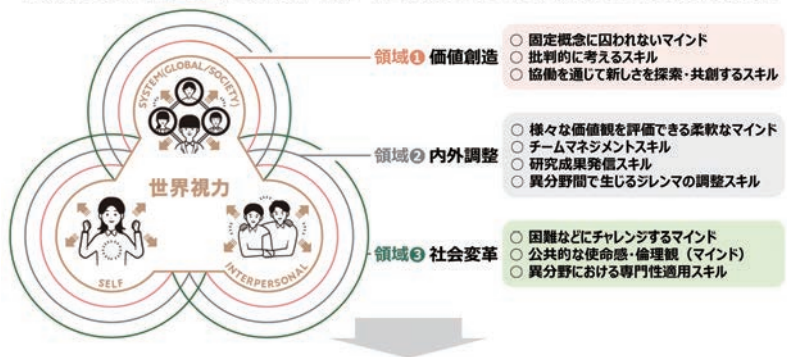
京都大学 総長 湊 長博

育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

「世界視力」を備えた 次世代トップ研究者 の育成

L-INSIGHTでは、「世界視力」を備えた、国際的に最先端の研究を牽引できる人材、境界域や新領域研究を開拓できる人材、産業界に新機軸をもたらし得るイノベティブな人材といった、次世代トップ研究者を育成するプログラムのスタンダード・モデルの構築を目指します。「世界視力」の獲得に必要な、価値創造・内外調整・社会変革という3つの領域で、自分自身(Self)・小さなグループ(Interpersonal)・大きな社会集団(System)という3つの観点から発揮されるマインドセットとスキルセットを育成・強化するための様々な機会をL-INSIGHTフェローに提供します。

「世界視力」の獲得に必要なマインドセットとスキルセットを醸成・強化
世界視力とは、時間、地理、学問分野、セクター、文化圏などの境域を超えて見渡し、見抜き、見通す力



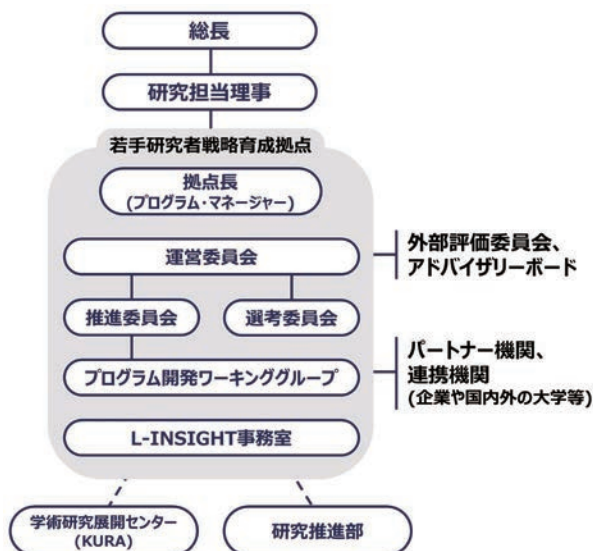
育成する次世代トップ研究者像

- ★「世界視力」を備えた、
- ・国際的に最先端の研究を牽引できる人材
 - ・境界域や新領域研究を開拓できる人材
 - ・産業界に新機軸をもたらし得るイノベティブな人材

運営体制

総括責任者である総長、実施責任者である研究担当理事の下に設置された若手研究者戦略育成拠点において、プログラム・マネージャーを中心に、学術研究展開センター(KURA)及び研究推進部の支援や、パートナー機関及び連携機関との連携・協力のもと、事業を運営しています。運営委員会は事業の重要事項を、推進委員会は事業の進捗状況や推進方策等を審議し、プログラム開発ワーキンググループが各プログラムの開発・実証・改善を行います。また、学内外の有識者をメンバーに含めた選考委員会で、毎年度公募する新規L-INSIGHTフェローの審査を行います。

さらに、主に学外の有識者からなる外部評価委員会とアドバイザリーボードを設置しています。外部評価委員会は、本事業における3つのフェーズ(開発と実証のための形成期(1~5年度目)、体系化への改善期(6~8年度目)、内化への変換期(9~10年度目))の各最終年度に、アドバイザリーボードは定期的に開催し、両組織からの評価や助言を効率的に得て、事業全般やプログラムの改善に活かしています。令和6年度からは若手研究者戦略育成拠点をKURAの中に位置付け、事業を引き続き推進する予定です。

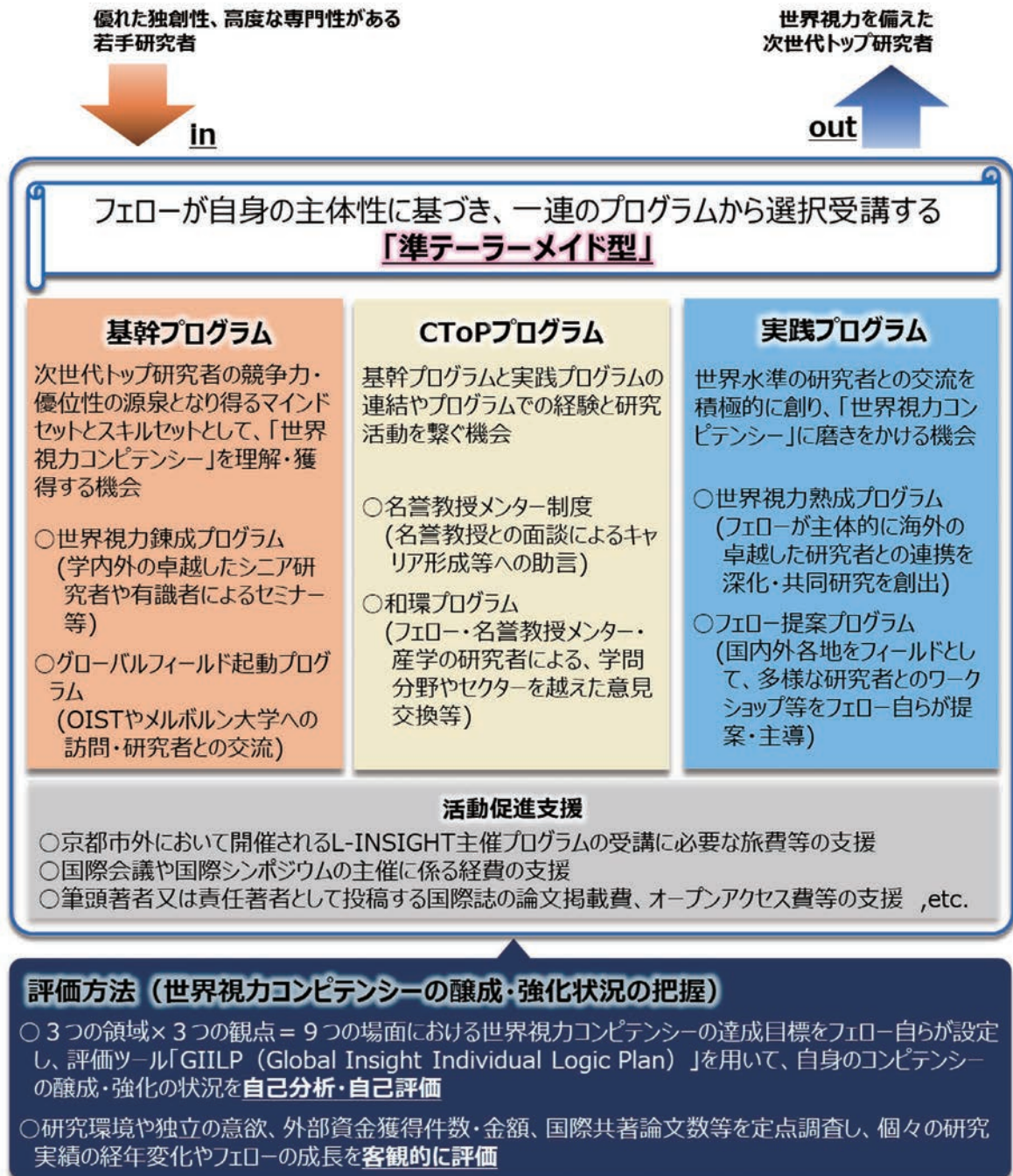




L-INSIGHT

開発する育成プログラムの構想

フェローが自身の主体性に基づいて受講プログラムを選択する「準ティーラーメイド型」を採用し、次世代トップ研究者の競争力・優位性の源泉となり得るマインドセットとスキルセットとして、「世界視力コンピテンシー」の醸成・強化に取り組みます。基幹プログラムによりコンピテンシーの理解・獲得を、実践プログラムによりコンピテンシーの向上を図ります。また、両プログラムの連結等を図るCToPプログラムを用意するとともに、フェローの自律的参加を促すための活動促進支援を行います。独自に開発した自己分析・自己評価ツール(GIILP)や客観的指標による定点調査を用いて、フェローが達成目標として設定したコンピテンシーの醸成・強化状況を把握します。



本事業による「世界視力」を備えた次世代トップ研究者の育成を通じ、我が国の科学技術・学術の発展に貢献して参ります。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

プログラム・マネージャー
石川 冬木

京都大学 名誉教授、副学長、
次世代研究者戦略育成拠点長、
学術研究展開センター(KURA)センター長

代表機関 実施責任者

時任 宣博

京都大学理事・副学長
(研究・評価担当)



育成対象研究者（新規採用者数）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教授相当	1名	0名	0名	-名
准教授相当	1名	0名	0名	-名
講師相当	0名	0名	1名	-名
助教相当	8名	6名	5名	-名
研究員・ポスドク相当	0名	1名	0名	-名
合計	10名	7名	6名	-名

令和5年度12月時点の情報に基づいて作成しております。

※2023年度は、2024年3月までに公募・採用予定。

広島大学



地方協奏による
世界トップクラスの研究者育成
HIRAKU-Global

中国四国地方の若手研究者が、国際的なコミュニティの中で確かなプレゼンスと影響力を有し、インパクトを与える研究者となるよう、能力開発やネットワーク形成の機会の提供と、ビジビリティ向上のための支援を行います。それにより、地域全体の研究力のさらなる向上に貢献します。

共同実施
機関

山口大学、徳島大学、愛媛大学

総括
責任者

広島大学 学長 越智 光夫

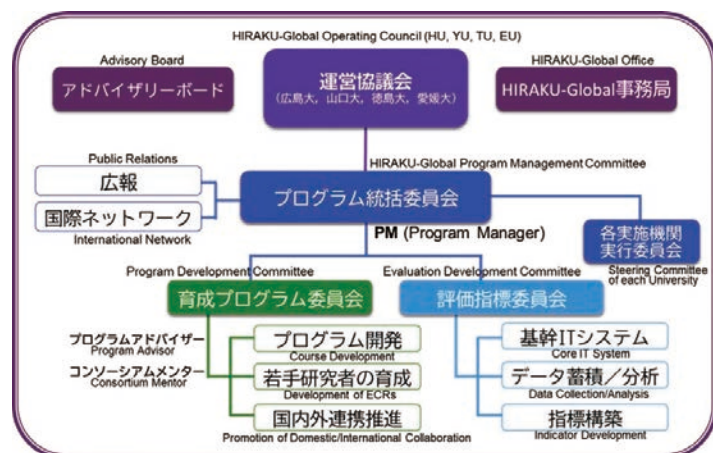
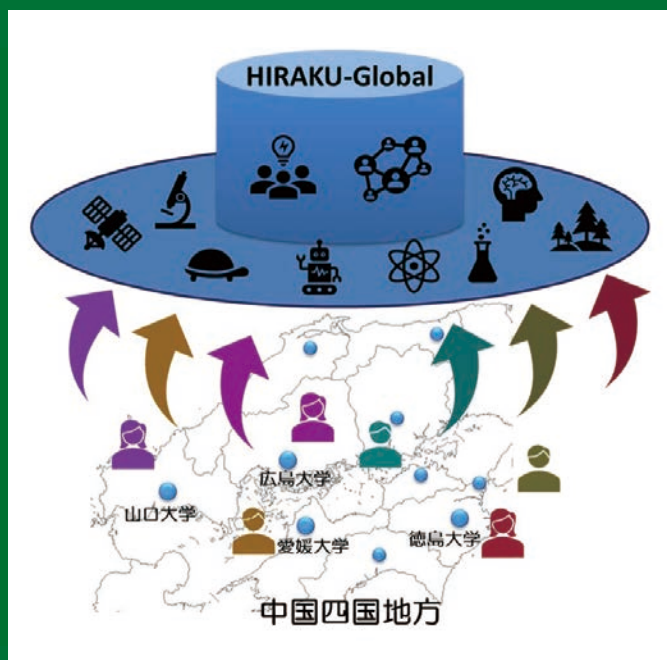
育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

多様性に富み、サステナブルな 研究人材育成

HIRAKU-Globalで育成する世界トップクラスの研究者像は、自分の研究室を運営し、学生を育てつつ、さまざまな分野の国内外の研究者と連携し、独自の研究感性を磨き、世界でもユニークな研究を牽引していく研究人材です。

- 育成対象の若手研究者同士がネットワークを形成し、多様な学際領域に触れ、切磋琢磨し、共に高めあうプラットフォームを形成します。
- 博士課程後期学生が、RA(リサーチアシスタント)として、あるいは、リサーチフェローとして、最先端の研究と国際的な活動を経験する場でもあります。さらに次の世代が育っていきます。
- 各機関の研究設備・機器を相互に利用できるような枠組を構築し、共用を促進します。

国際的なプレゼンスと影響力のある研究者、すなわち、3I (Innovative, Influential, Impactful) 研究者を目指した育成プログラムの開発を行います。



運営体制

HIRAKU-Globalの 実施体制

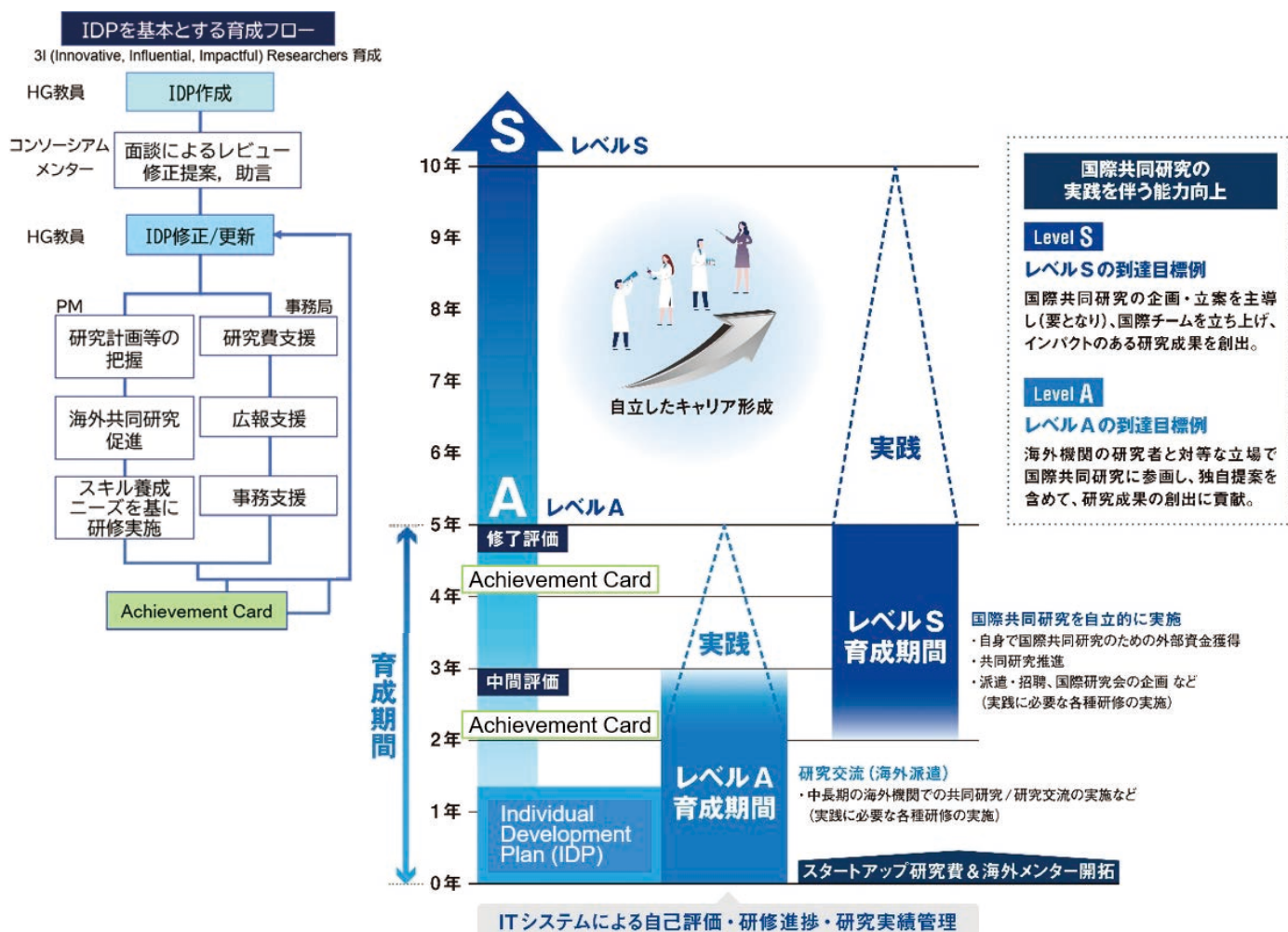
- 運営協議会、プログラム統括委員会、育成プログラム委員会、評価指標委員会は、実施機関(4大学)の委員で構成しており、4機関の密な連携体制を構築しています。
- 運営協議会において、HIRAKU-Globalの実施計画、予算、育成対象者の募集・選考等について審議し、決定します。HIRAKU-Global事務局は広島大学に設置しています。

- アドバイザリーボードは、日英米豪から1名ずつ(令和5年11月現在)の、研究者育成に実績のある国内外の方々メンバーです。毎年3月頃にアドバイザリーボードミーティングを開催し、HIRAKU-Globalの進捗状況をふまえて、有益な助言を受けています。
- コンソーシアムメンターは、5名(令和5年11月現在)の、研究者として深い経験と知見を有する方々です。コンソーシアムメンターは、メンティと必ずしも専門性は一致していません。将来を見据えた、大所高所からのアドバイスをそれぞれのメンティに与えます。

開発する育成プログラムの構想

IDPを基本とする育成フロー

- IDP (Individual Development Plan) は、次の4項目で構成しています。育成開始時に、各育成対象者がIDPの作成を開始し、コンソーシアムメンターとの面談などによって、随時更新します。
 - ①目標設定：ビジョン／中長期計画
 - ②研究計画：共同研究者候補／ネットワーク構築計画
 - ③資金計画：研究費の活用計画／資金獲得計画
 - ④トランスファブルスキル：養成すべき能力の認識
- 育成開始後の3年目と5年目に、活動実績を可視化するAchievement Cardを作成します。これにより、育成対象者がIDPに記載してきた計画や目標に基づいて自身の活動を振り返り、今後の研究の進め方を見つめなおします。
- 育成は、個別のニーズを踏まえたうえで、Visionary Empowerment及びProfessional Empowermentの観点から研修や交流等と国際共同研究の実践を効果的に組み合わせて進めます。育成プログラムの構築と連動させて、研究及び研究者の評価指標を構築します。



HIRAKU-Globalコンソーシアムでは、世界で活躍する研究人材の育成と、それらの研究者が中国四国地方における研究の展開を牽引していくようになることをめざしています。

プログラム・マネージャー
TENDEIRO Jorge
広島大学 学術・社会連携室教授

代表機関 実施責任者
相田 美砂子
広島大学 特命教授



育成対象研究者 (新規採用者数)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教授相当	0名	0名	0名	0名
准教授相当	1名	1名	0名	0名
講師相当	0名	0名	0名	1名
助教相当	6名	7名	6名	5名
研究員・ポスドク相当	0名	0名	0名	0名
合計	7名	8名	6名	6名

令和5年度12月時点の情報に基づいて作成しております。



学際融合グローバル研究者育成 東北イニシアティブ TI-FRIS

「学際性」、「国際性」、「社会性」を兼ね備えた世界トップクラスの研究者を育成するために、東北地域の7国立大学がコンソーシアムを形成して、国内外の連携機関の協力を得ながら、各機関・組織の強みを活かした異分野交流を核とする多様で柔軟な研究者育成プログラムを構築します。

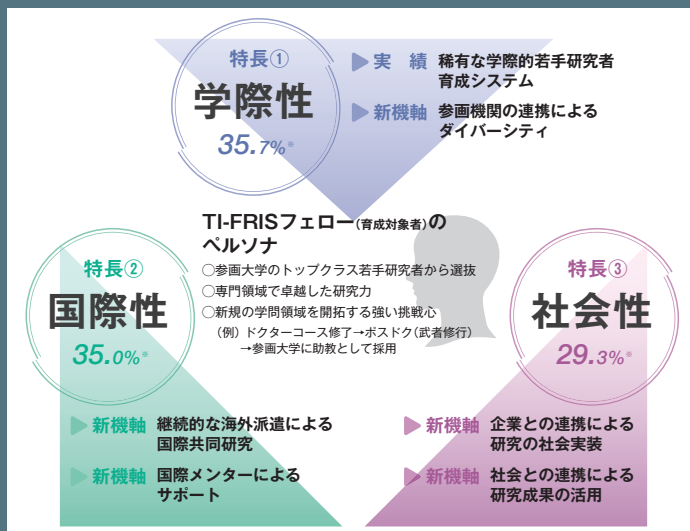
共同実施機関 弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、宮城教育大学

総括責任者 東北大学 総長 大野英男

育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

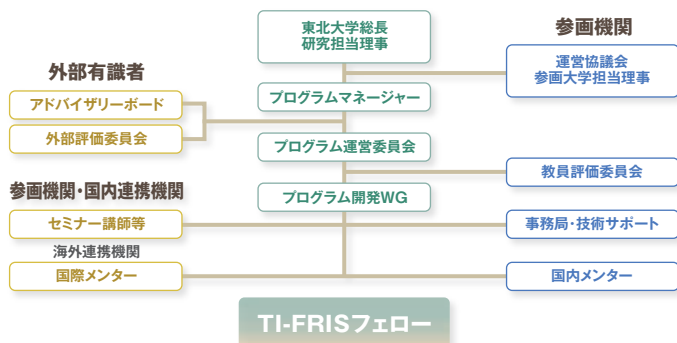
東北から世界へ羽ばたく 人材の育成

TI-FRIS の描像する世界で活躍できる研究者は、それぞれの専門分野で世界を先導しつつ、異分野の研究者と学際研究を展開できる力(学際性)、世界の研究者と切磋琢磨して研究を推進できる力(国際性)、および社会と連携して研究成果を社会に活かせる力(社会性)を兼ね備えた人物です。TI-FRISでは、これらの能力を修得するための各プログラムを有機的に実施できるシステムの構築を目指して、東北地域の大学と企業との強固な連携体制を基盤とし、地域と専門分野の垣根を越えたシナジー効果により、学術的インパクトと社会的インパクトを併せ持った研究成果を世界に発信できる研究者を育成します。



運営体制

TI-FRISは東北地域の7大学の強みを活かした挑戦的創造の場です。代表機関である東北大学の学際科学フロンティア研究所にTI-FRIS事務局を設置し、プログラムマネージャーが統括しつつ、全参画機関が協力して事業を運営しています。全参画機関の委員からなるプログラム運営委員会は事業の重要事項を審議し、教員評価委員会はTI-FRISフェローの選考とモニタリングを実施します。外部有識者で構成されるアドバイザーボードと外部評価委員会は、事業の進捗状況の確認、検証、評価、改善の提案を行います。事業の実施全般はプログラム開発ワーキンググループが担当します。オンラインシステムにより、研究者交流や全ての委員会の業務を効果的に実施できる環境を整備しています。





開発する育成プログラムの構想

連携による大きなダイバーシティをもつ挑戦的創造の場

TI-FRIS では、学際融合研究をベースとした研究者育成に取り組んできた東北大学を代表機関として、それぞれ独自の研究の強みを有する東北地域の弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、宮城教育大学がコンソーシアムを形成し、それぞれの強みや独自の特徴的な取り組みを活かしたプログラムを展開しています。国内外の連携研究機関や連携企業の協力を得ながら、学際研究者交流、国際共同研究、研究社会実装のプログラム群と、ベースとなるトランスファラブルスキル修得プログラムを提供します。これらにより、研究者の内発的な成長に向けて柔軟に対応・支援し、ダイバーシティを重視した挑戦的創造の場を構築します。

また、TI-FRISフェローの安定的、自立的かつ国際的な研究環境を確保し支援するため、TI-FRISフェローごとに国内メンターおよび国際メンターを配置しています。

学際性

学際研究者交流プログラム

(5年間)

異分野の研究者との交流

各分野の研究者が専門と所属機関の垣根を越えて集い、研究成果について発表・討論を行い、学際融合研究に発展させる研究交流を行います。異分野の研究者と学際研究を展開できる力(学際性)の強化を目指します。



- 学際融合研究交流会(毎月)
- 学際融合研究者育成合宿(年1回)
- 学際融合研究支援

学際融合研究交流会

TI-FRIS/FRIS Hub Meeting

幅広い分野の若手研究者が大学・分野の垣根を越えて交流

若手研究者が学際融合研究の重要性を理解しながら活用できる研究者への成長をサポートする機会として開催しています。「自分の分野の何が面白いのか」「自分の分野の研究手法とは」「自分の分野内だけでは解けそうにない問題の紹介」などに重点が置かれた発表を行います。東北大学とオンラインで月1回開催されています。



- オンラインとオンラインのハイブリッド開催
- 収録動画のアーカイブ化
- 科学記者への公開

国際性

国際共同研究プログラム

(5年間)

世界トップレベル研究者との共同研究

TI-FRISフェローが海外研究機関に滞在。世界のトップレベル研究者と継続的な国際共同研究を実施します。世界の研究者と切磋琢磨しながら研究を推進する力(国際性)強化を目指します。



- スタートアップ支援
- 国際共同研究支援
- 研究成果発表支援
- セミナー開催支援

社会性

研究社会実装プログラム

(5年間)

研究を社会に活かせる力を身につける

TI-FRISフェローが企業等と産学共同研究を実施。研究成果の社会実装に発展させるための交流や支援を通して社会と連携しながら研究成果を社会に活かせる力(社会性)を強化します。



- 産学共同研究サポート
- 社会実装サポート
- 産学共同研究・社会実装支援

トランスファラブルスキル修得プログラム (5年間)

対課題、自己管理、対人といった広く応用可能なスキルの修得

世界トップクラス研究者に不可欠なスキルを強化するために、多くの実績を持つ国内外の著名な研究者・有識者による講座を開催しています。オンライン開催や収録動画のアーカイブ化などによって、弾力的な運営を進めています。

- 学際研究講座
- トブ研究者講座
- 学術インパクト講座
- 社会インパクト講座
- 産業界R&D・社会実装講座



共通プログラム

研究基盤となる設備を整理
関係者間の交流&情報発信も

参画機関の連携のもと、TI-FRISフェローが独立した研究を実施するために基盤となる研究設備を整備。また、TI-FRISフェローの成果発表とTI-FRISフェローと参画機関および連携機関の関係者間の交流、事業の情報発信の場を設けます。



- 研究設備共用ネットワーク
- シンポジウム

ダブルメンター制度

国内メンター

TI-FRISフェローの安定的かつ自立的な研究環境を確保と支援のため、TI-FRISフェローの所属機関のシニア教員が国内メンターとして活動します。



国際メンター

TI-FRISフェローの国際的な研究環境を確保し支援を目的として、TI-FRISフェローの国際共同研究機関のシニア研究者が国際メンターとしてTI-FRISフェローをさまざまな面で支援します。



学際研究者コミュニティのリーダーとして国際共同研究プロジェクトや研究成果の社会実装プロジェクトを牽引する研究者の育成を目指します。

プログラム・マネージャー
早瀬 敏幸
東北大学
学際科学フロンティア研究所長

代表機関 実施責任者
小谷 元子
東北大学理事・副学長
(研究担当)



育成対象研究者 (新規採用者数)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教授相当	0名	0名	0名	0名
准教授相当	7名	1名	2名	1名
講師相当	0名	1名	0名	0名
助教相当	8名	4名	3名	4名
研究員・ポスドク相当	0名	0名	0名	0名
合計	15名	6名	5名	5名

令和5年度12月時点の情報に基づいて作成しております。



大学×国研×企業連携による トップランナー育成プログラム TRiSTAR

TRiSTAR は、自身の専門性の追求の先に、分野や業種の壁を超えた新たな可能性を見出すことができる「トランスボーダー型研究者」の育成を図ります。従来の人材育成の枠を超え、大学、国研、企業、三者それぞれの強みを活かした協働とキャリアパスを創出する新時代の育成モデルを目指します。

共同実施
機関

茨城大学、お茶の水女子大学、産業技術総合研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、物質・材料研究機構、国立遺伝学研究所、株式会社アーク・イノベーション、関研商事株式会社、株式会社トヤマ、日本アイ・ビー・エム株式会社、株式会社日本政策投資銀行、ファイメクス株式会社

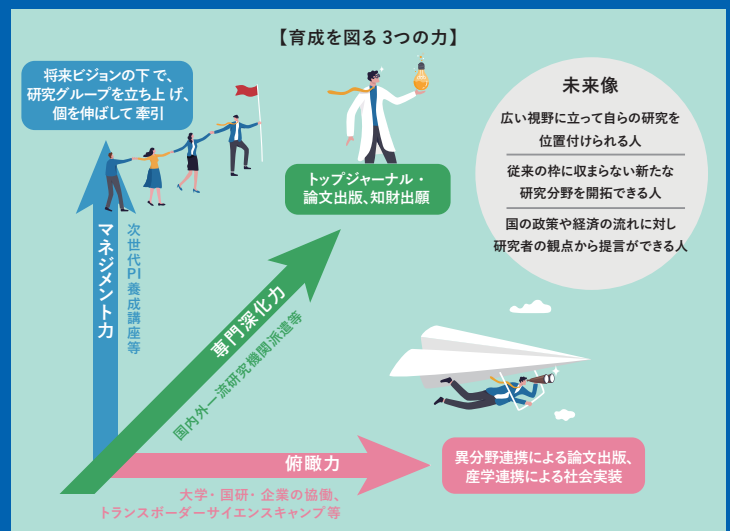
総括
責任者

筑波大学 学長
永田 恭介

育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

壁を超えた可能性に挑む 「トランスボーダー型研究者」

TRiSTARが目指す研究者像は、自身の専門性の追求の先に、分野や業種の壁を超えた新たな展開可能性を見出すことができる「トランスボーダー型研究者」です。TRiSTARでは、①オリジナルで先端性をもつ研究を長期的なビジョンを見据えて深化させていく「専門深化力」、②専門分野を持つポテンシャルから異分野融合や産学連携など他分野/他業種との共創を導き出す「俯瞰力」、③将来ビジョンの下で研究グループを立ち上げ、個を伸ばして牽引していく「マネジメント力」を醸成し、次世代に活躍するトランスボーダー型研究者を育成し、大学、国研、企業との協働とキャリアパスの循環を図ります。



コンソーシアム協議会

代表機関の実施責任者

議長

TRiSTAR事務局

実施機関

筑波大学・茨城大学・お茶の水女子大学
産総研・農研機構・NIMS・遺伝研
アーク・トヤマ・DBJ・関研商事・IBM・ファイメクス

プログラム強化委員会

プログラム統括 (PM)

TRiSTAR事務局

アドバイザリーボード (24機関)

WG1

トランスボーダー人材支援
WG

URA等

WG2

次世代PI養成講座 WG

URA等

WG3

研究環境整備 WG

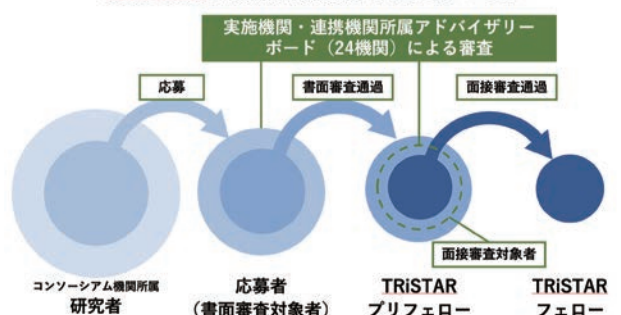
URA等

担当機関

運営体制

コンソーシアム参加機関が一体となって研究者育成プログラム開発・実証を推進するため、実施機関の実施責任者等から成る「コンソーシアム協議会」をヘッドクォーターとして設置します。研究者育成プログラム内容の企画立案とその実証は、本事業全体を統括する「プログラム統括 (PM)」の下に活動する「ワーキンググループ」において、URA等の高度専門人材を中心に進めます。研究者育成プログラム全体の評価・改善は、「プログラム強化委員会」が担い、その活動内容についての助言と育成対象者の審査は「アドバイザリーボード」が担います。

TRiSTAR育成対象研究者の選定プロセス



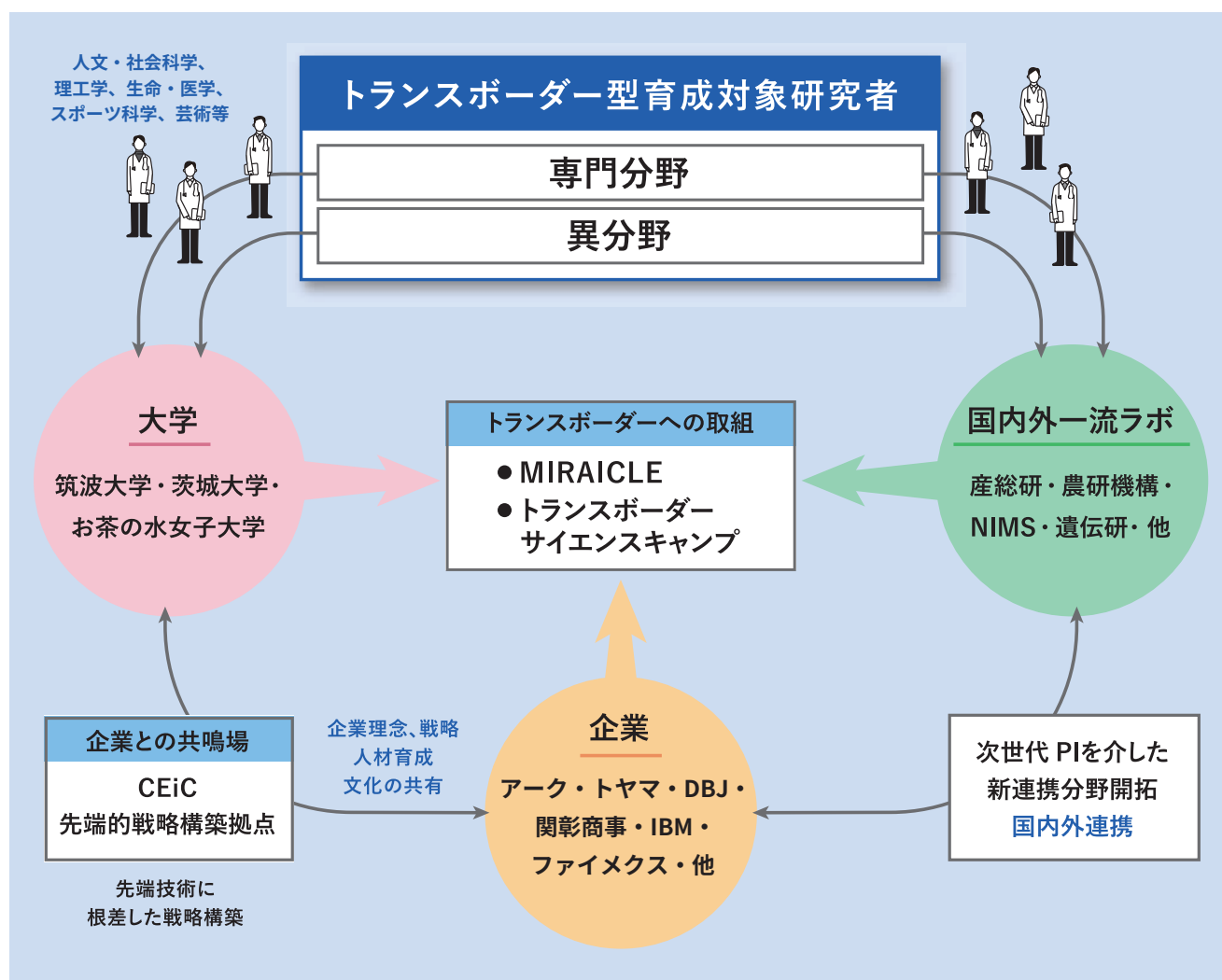
開発する育成プログラムの構想

大学×国研×企業のシナジーによる人材育成

TRiSTARの育成プログラムでは、国内トップクラスの研究環境を有する筑波研究学園都市の強みを最大限に活かし、大学×国研^(*)×企業との協働の下、世界を先導する「トランスボーダー型研究者」育成プログラムの開発と実証を行います。育成対象者を大学、国研、企業から選出し、研究者、派遣機関、受入機関の三者間でマッチングを図りながら、トランスボーダーな活動に対する組織的な支援、企業との先端技術や人材育成文化の共鳴場(CeIC)の活用等により、他分野/他業種との共創の可能性を引き出していきます。

このプログラム推進のため、コンソーシアムを組成すると共に「トランスボーダー人材支援」「次世代PI養成講座」「研究環境整備」のワーキンググループを設置し、異分野融合や産学連携、世界トップの研究者ネットワークへの参入、ダイバーシティ&インクルージョン、知的財産の保護・資源化など、育成対象者の研究力強化を行っていきます。

(*)国研：国立研究開発法人、大学共同利用機関法人、省庁の研究機関、独立行政法人の研究機関等の公的研究機関を総称して、「国研」としています。



TRiSTARコンソーシアムでは、産官学の協働により、専門性からの飛躍とキャリアパス循環を図り、これまでにない人材育成スキームの構築を目指していきます。

プログラム・マネージャー
梅村 雅之
筑波大学 若手研究者育成支援室 室長
学長特別補佐

代表機関 実施責任者
重田 育照
筑波大学 副学長・理事
(研究担当)



育成対象研究者（新規採用者数）

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教授相当	0名	0名	0名
准教授相当	0名	2名	4名
講師相当	0名	1名	1名
助教相当	5名 ^(※)	12名	5名
研究員・ポスドク相当	0名	2名	0名
合計	5名	17名	10名

※育成支援研究者として「プリフェロー」と「フェロー」の2段階を設定。初年度である令和3年度には、プリフェローの支援を開始。

令和5年度12月時点の情報に基づいて作成しております。



名古屋大学

世界的課題を解決する 知の「開拓者」育成事業 T-GEEx

T-GEEx では、若手研究者が大型の国際的・学際的研究プロジェクトを牽引する PI や、産学連携や起業を国内外で活発に展開する高度人材など、自らが定める方向で成長していくことを支援し、これにより、次世代に対する「ロールモデル」を輩出して、東海圏内外に人材育成の好循環を作り出していくことを目指します。

共同実施
機関

岐阜大学

総括
責任者

名古屋大学 総長 杉山 直

育成する世界トップクラスの研究者像とその育成方針・理念

世界的課題を解決する 知の「開拓者」の育成

T-GEEx が育成目標とする研究者像は、「国」「業種」「分野」「文化」の壁を打ち破り、異なる領域の知と経験を縦横につなぎながら新たな課題に常に挑戦し、チームを牽引して世界的課題の解決を実現する高度な知の「開拓者」です。国際的学術潮流をリードする国際・学際共同研究を展開したり、産学連携や起業を通じて社会のニーズに応えたりすることで、イノベーション効果を広く産業や社会へと波及していくことが期待されます。東海国立大学機構では、大学院教育からシームレスに若手研究者を育成しており、知の「開拓者」による研究・社会実践活動が次世代の若手研究者たちを触発し、高度人材育成の好循環を作り出していきたいと考えています。



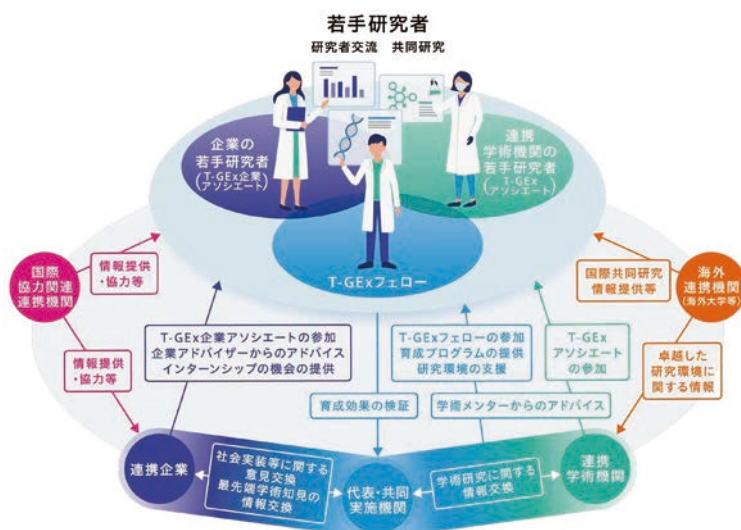
運営体制

T-GEEx は名古屋大学を代表機関、岐阜大学を共同実施機関とし、東海圏内外の連携学術機関、連携企業及び国際協力関連連携機関とコンソーシアムを形成しています。

年間の事業計画の協議や実績確認を行うのは、実施機関責任者が主催する運営協議会です。

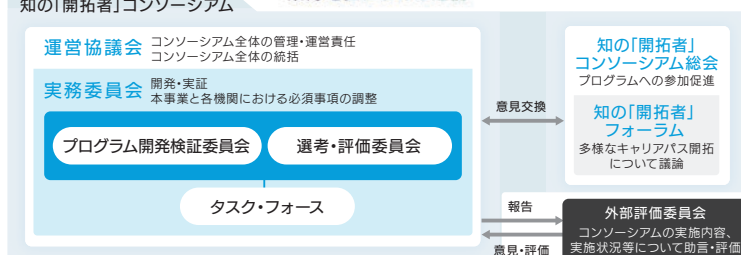
事業運営の中核はプログラムマネージャーを中心とする実務委員会であり、この中に、若手研究者の採用、研究計画の審査及び研究費支給を行う選考・評価委員会と、イベントやセミナーの妥当性確認を実施するプログラム開発検証委員会が設けられています。

さらに、プログラムの改善や向上をはかるために幅広い関係者が参加し、意見交換を行うコンソーシアム総会と、外部有識者から構成される外部評価委員会が設置されており、これらの機関からの助言や評価を事業運営の向上に役立てています。



知の「開拓者」コンソーシアム

東海地区における連携



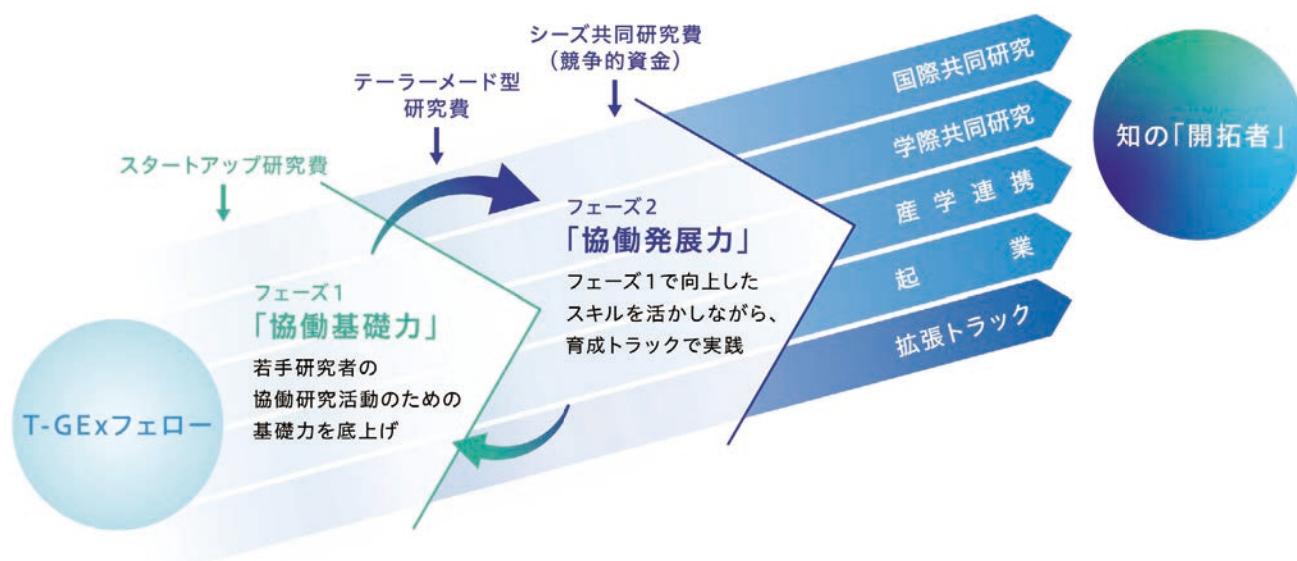
開発する育成プログラムの構想

5つのトラックを通じた
スキル構築と共同研究の実践

T-GEExプログラムの主眼は、若手研究者が大型の国際的・学際的研究プロジェクトを牽引するPIや、国内外で産学連携や起業を活発に展開する高度人材など、自らが定める方向(トラック)で成長していくことをテラーメード型に支援していくことです。

これにより、次世代に向けて多様な「ロールモデル」を輩出して、人材育成の好循環を作り出していくことを目指しています。このため、各種トランスファラブル・スキルやネットワーク構築のための機会を提供し、シーズ共同研究費の支給を通じて連携機関の若手研究者を巻き込んだ共同研究を促進していきます。

また、男女共同参画・ダイバーシティの推進やデジタル化の加速のために、コンソーシアム内での研究環境整備にも取り組んでいきます。



育成期間は5年間で、研究者としての「協働基礎力」を養うフェーズ1と「協働発展力」を高度化するフェーズ2から構成されています。

フェーズ1 基礎力の底上げ

- 世界的課題の解決を目指す研究の立ち上げ (スタートアップ研究費)
- スキルブースターモジュールへの参加
- 若手研究者のネットワーク構築

フェーズ2 育成トラックを実践

- 国際共同研究、学際共同研究、産学連携、起業と、これらを組み合わせた拡張トラックの5つのトラックから実践するトラックを選択し研究を推進 (テラーメード型研究費)
- T-GEExフェローとT-GEExアソシエイトとの共同研究や共同事業の推進 (シーズ共同研究費)

セミナー

- PI育成セミナー
- 研究者リーダーシップ・プログラム
- 知的財産セミナー

交流イベント

- キックオフミーティング
- リトリート合宿
- ロールモデルセミナー
- 国際ワークショップ

研究環境支援

- 高等研究院業務による研究エフォート確保
- 研究費の支援
- 研究スペースの提供
- 共通機器等の提供

人的サポート

- 学術メンター
- 企業アドバイザー
- URA、事務



世界的な学術潮流や産学連携・起業活動を牽引し、ロールモデルとなるトップランナーを東海圏から輩出することを目指します。

プログラム・マネージャー

武田 宏子

名古屋大学 高等研究院 副院長
名古屋大学 大学院法学研究科 教授

代表機関 実施責任者

門松 健治

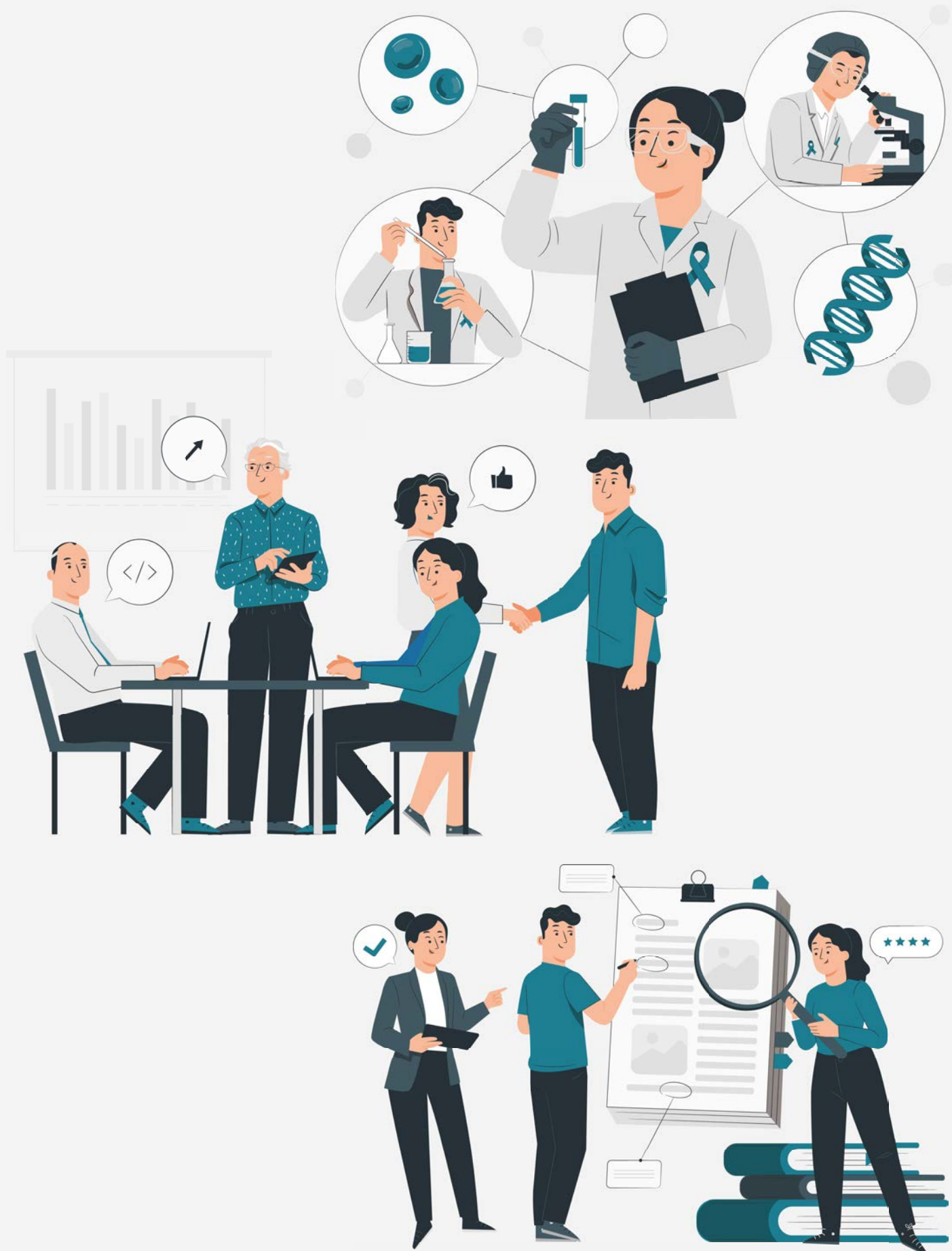
名古屋大学 副総長



育成対象研究者 (新規採用者数)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教授相当	0名	0名	0名
准教授相当	1名	0名	0名
講師相当	0名	0名	1名
助教相当	7名	6名	4名
研究員・ポストドク相当	0名	0名	0名
合計	8名	6名	5名

令和5年度12月時点の情報に基づいて作成しております。



「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」
 についての詳細は、ホームページ
<https://www.jst.go.jp/innov-jinzai/sekai/index.html>
 をご覧ください。

科学技術イノベーション人材育成部
 「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」事務局
 〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ
 TEL . 03-5214-8446 FAX . 03-6272-3033

